

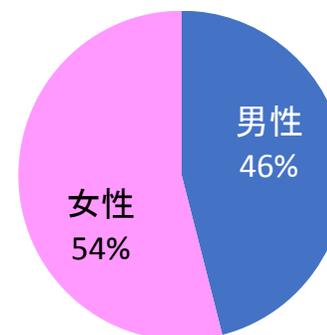
# 白川・緑川流域の住民アンケート結果の概要

# 防災意識アンケート調査【白川・緑川】

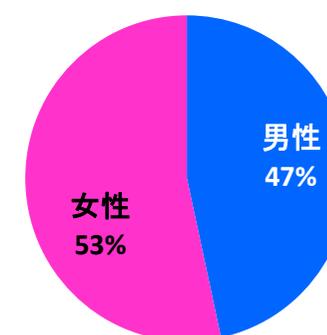
## アンケート概要

	白川	緑川
対象区域	熊本市 (白川直轄区間のうち、氾濫想定区域となっている区域)	熊本市、宇土市、嘉島町、甲佐町、御船町、美里町 (緑川直轄区間のうち、氾濫想定区域となっている区域)
対象者	住民(15歳以上)	
実施期間	H28.11.14～H.28.11.30	H28.11.14～H.28.12.19
回収数	315票※	414票※
調査方法	インターネットによるWEB調査	インターネットによるWEB調査＋紙面によるアンケート調査
設問数	29問	29問
設問項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白川に対する意識</li> <li>・水害時の状況、経験</li> <li>・水害に対する意識</li> <li>・平常時及び降雨時の行動</li> <li>・行政の取り組みの活用</li> <li>・行政へのニーズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑川に対する意識</li> <li>・水害時の状況、経験</li> <li>・水害に対する意識</li> <li>・平常時及び降雨時の行動</li> <li>・行政の取り組みの活用</li> <li>・行政へのニーズ</li> </ul>

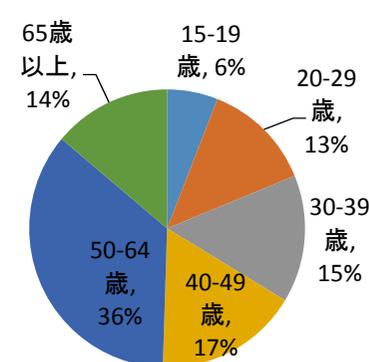
<白川>



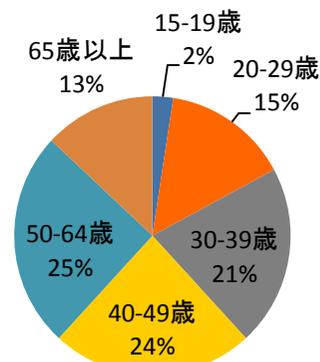
<緑川>



<白川>



<緑川>



※回収目標数300票：治水経済評価等における必要有効票数は50～300程度とされている。また、回答結果の信頼水準95%±5%前後の標本誤差内となり、回答の信頼性を十分有する。

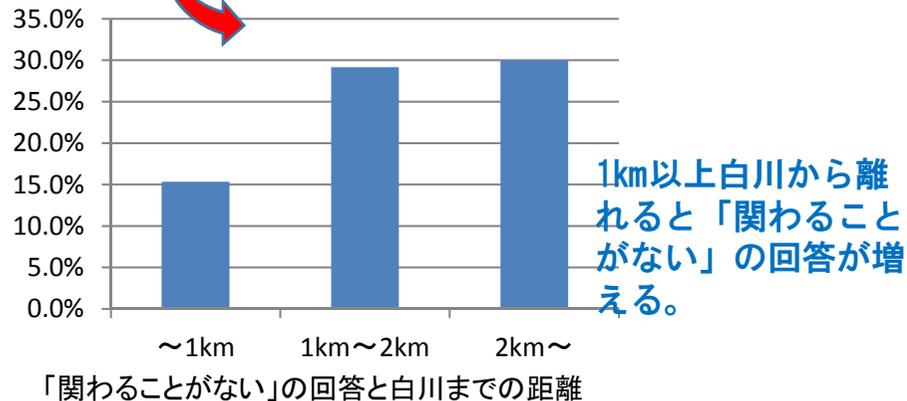
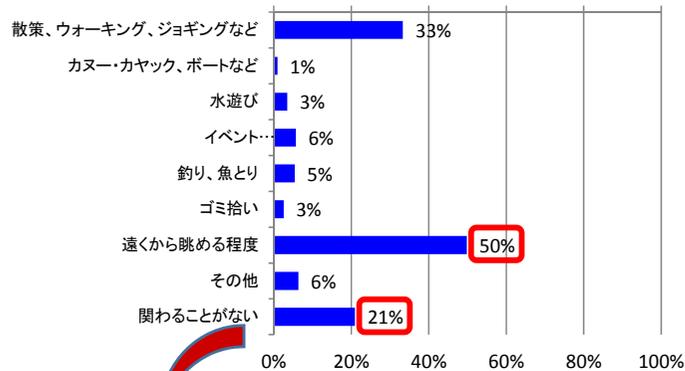
# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ① 川との関わり、川に対するイメージ

### <白川>

想定氾濫区域内に住んでいるにも関わらず、遠くから眺める程度が5割及び関わりがないとの回答が約2割を占め、白川との関わりが薄い。

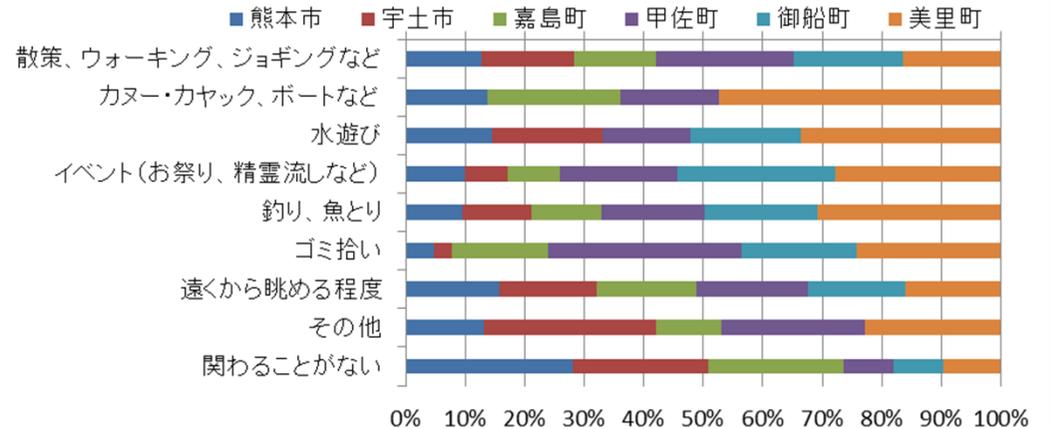
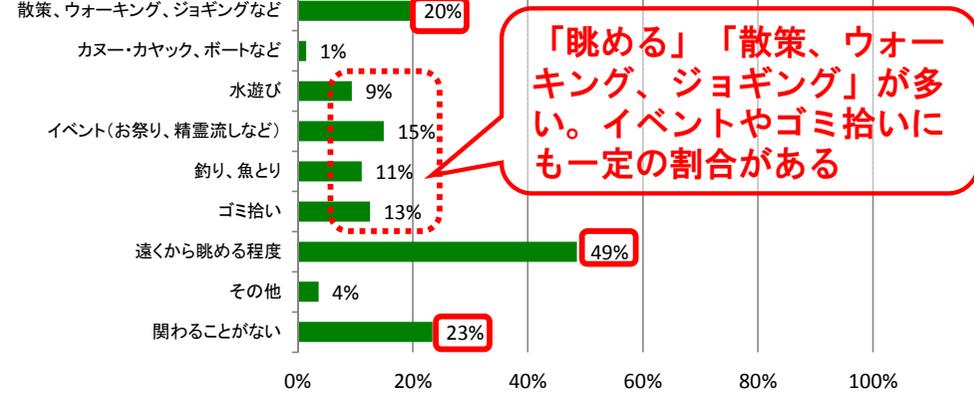
#### 「Q.普段からの白川との関わり（複数回答可）」



### <緑川>

遠くから眺める程度が約5割、関わりがないとの回答が約2割を占め、緑川との関わりが薄い。一方でイベントやゴミ拾い等への回答もある。

#### 「Q.普段の緑川との関わり（複数回答可）」



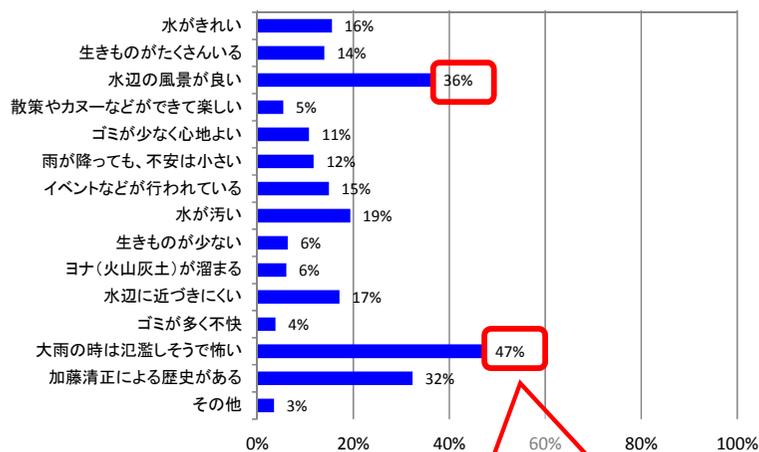
# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ① 川との関わり、川に対するイメージ

### <白川>

「水辺の風景が良い」などの評価がある一方、「氾濫しそう」というイメージを持たれている方が約5割を占める。

#### 「Q.白川に対するイメージ（複数回答可）」

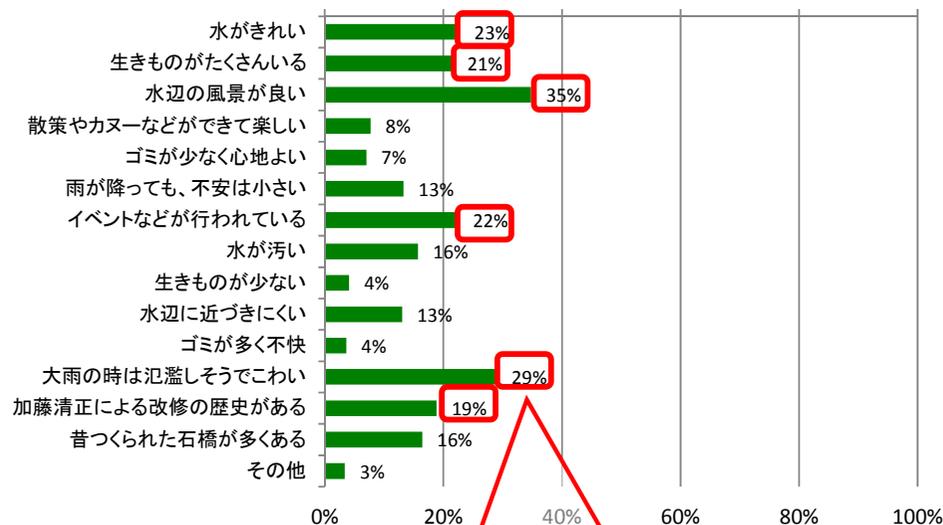


白川の水害に対する不安感はある。

### <緑川>

水辺の風景や水質、生物、川でのイベント等などの評価がある一方、「氾濫しそう」というイメージを持たれている方が約3割を占める。

#### 「Q.緑川に対するイメージ（複数回答可）」



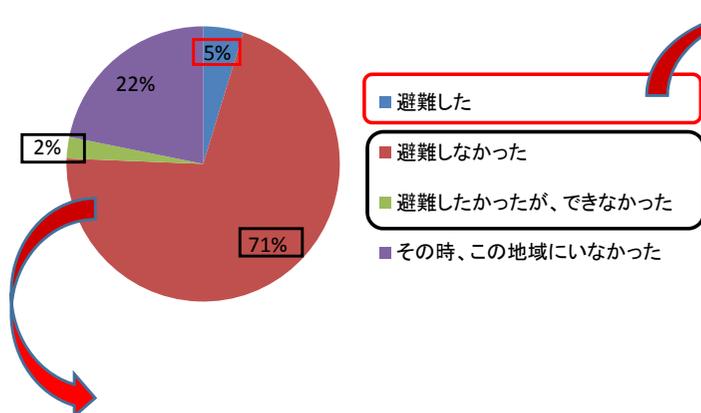
緑川の水害に対する不安感もややある。

# 白川流域の住民アンケートの結果

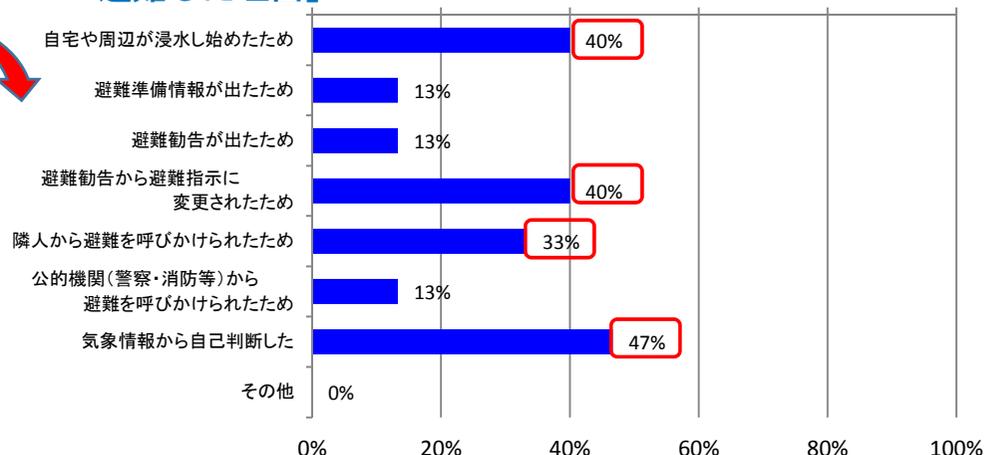
## ②平成24年九州北部豪雨: 避難行動について

平成24年九州北部豪雨においては、避難を実施した方は、わずか5%であり、多くの方が避難していない。避難しなかった理由としては、「自宅まで水害が及ばないと思った。」「身の危険を感じなかった」など防災意識の低さが伺える。

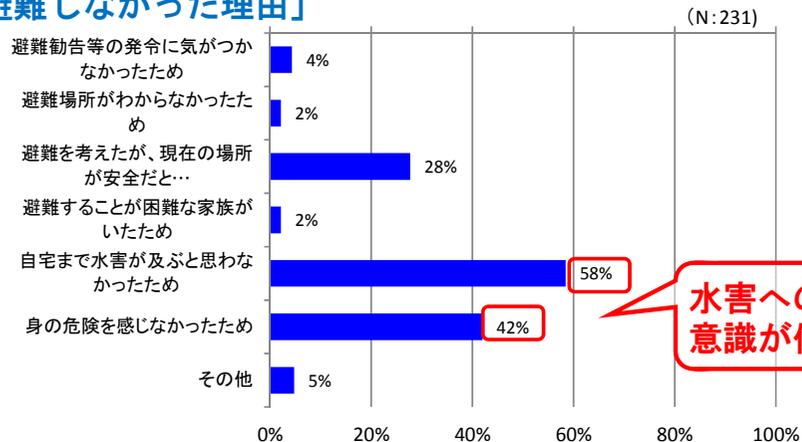
「Q.平成24年九州北部豪雨災害における避難の実施」



「Q.避難した理由」

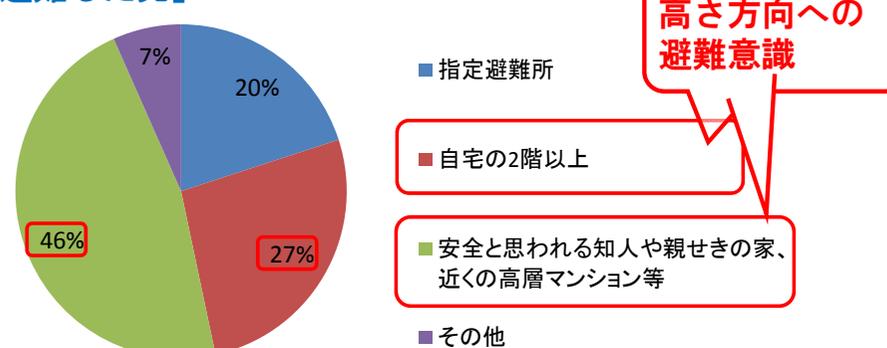


「Q.避難しなかった理由」



水害への防災意識が低い

「Q.避難した先」



高さ方向への避難意識

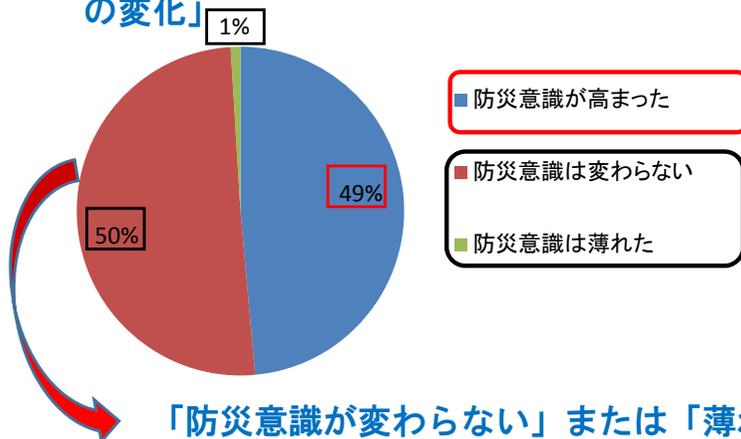
# 白川流域の住民アンケートの結果

## ③平成24年九州北部豪雨: 防災意識について

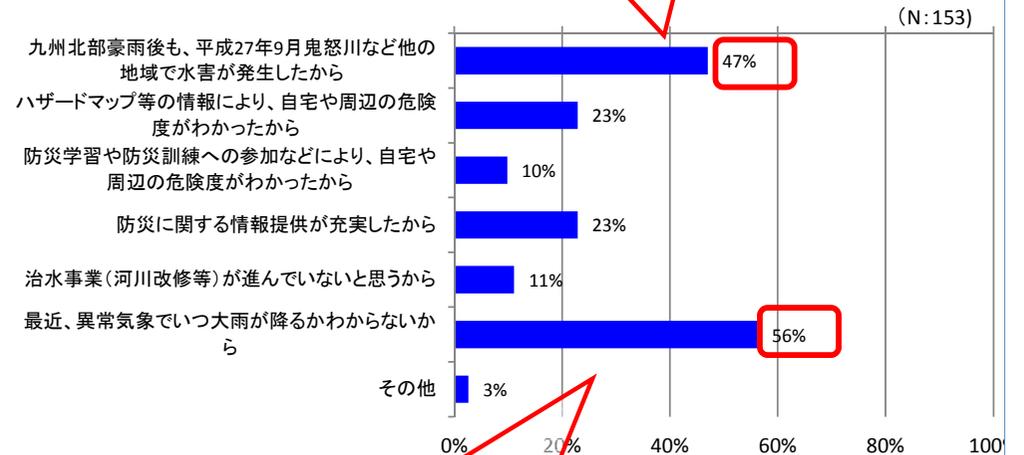
平成24年7月九州北部豪雨の前後と比較して、防災意識は5割の方が高まっているものの、「白川の河川改修が進んでおり安全」、「これまでに住んでいるところで水害が起きていない」等の理由から5割の方は変化していない。

平成24年7月九州北部豪雨後、防災意識が高まった方のうち、近年の集中豪雨、全国的な水害の発生状況により、防災意識が高まっていることが伺える。

「Q. 平成24年7月の九州北部豪雨直後と比較しての防災意識の変化」

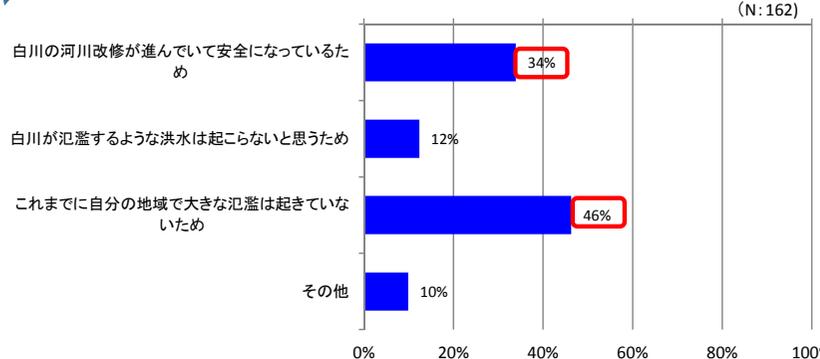


「防災意識が高まった」理由



日本の各地で水害が発生していることを認識

「防災意識が変わらない」または「薄れた理由」



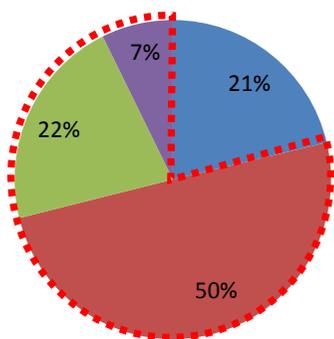
近年の雨のリスクを認識

# 白川流域の住民アンケートの結果

## ④昭和28年6月出水

昭和28年6月水害については、約8割の方が認識している。世代別で見ると40歳代以下の方は認識度が低いことが伺える。

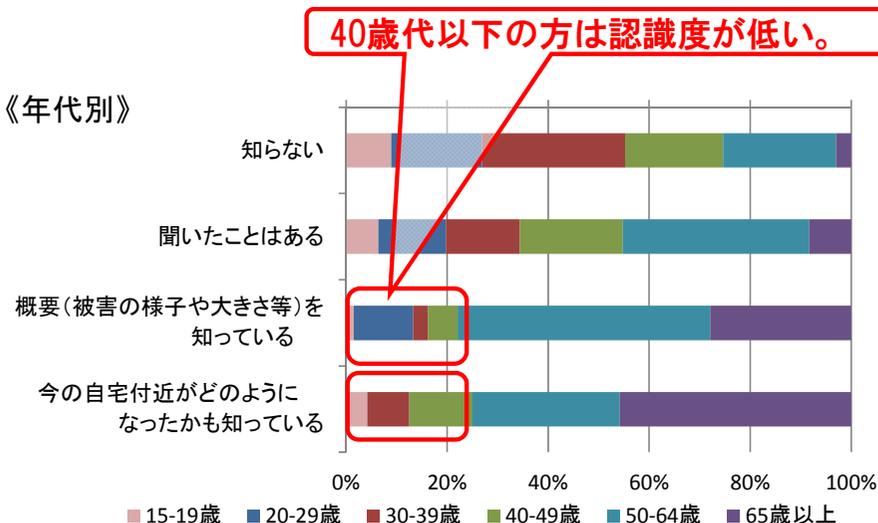
### 「Q.戦後最大の被害を出した昭和28年6月の水害の認識」



約8割が認識している。

- 知らない
- 聞いたことはある
- 概要(被害の様子や大きさ等)を知っている
- 今の自宅付近がどのようなようになったかも知っている

### 《年代別》

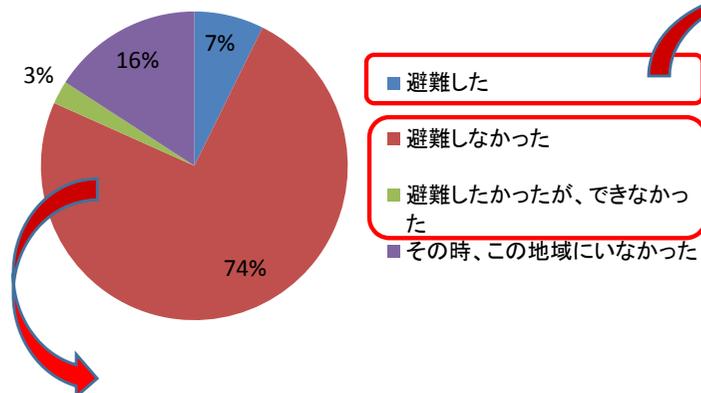


# 緑川流域の住民アンケートの結果

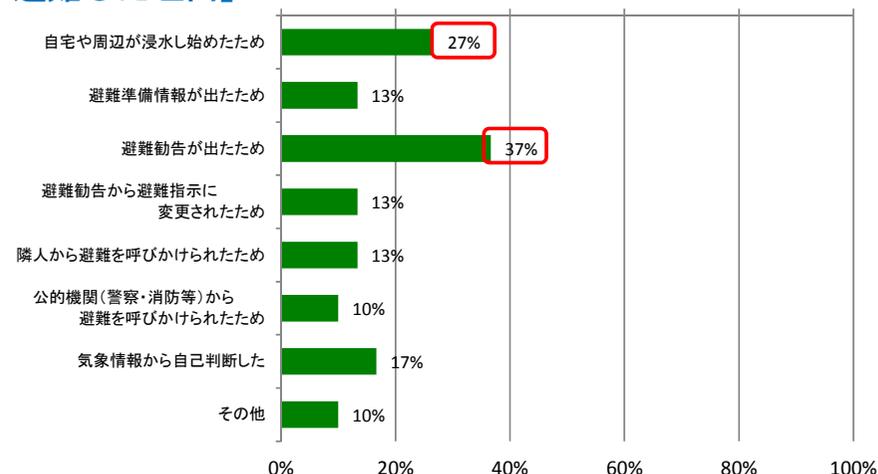
## ②平成28年6月出水：避難行動について

平成28年6月出水においては、避難を実施した方は、わずか7%であり、多くの方が避難していない。避難しなかった理由としては、「自宅まで水害が及ばないと思った。」「身の危険を感じなかった」など危機意識の低さが伺える。

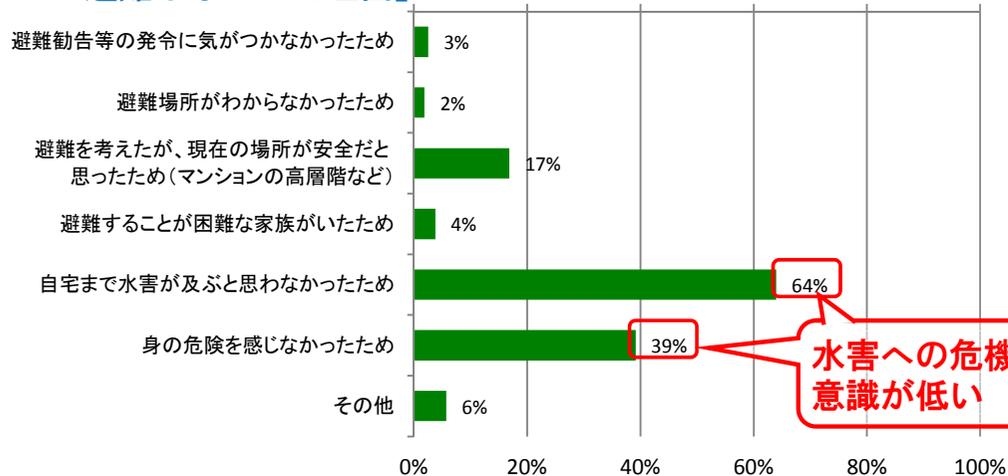
「Q.平成28年6月出水における避難の実施」



「Q.避難した理由」



「Q.避難しなかった理由」



水害への危機意識が低い

「Q.避難した先」



避難所の理解

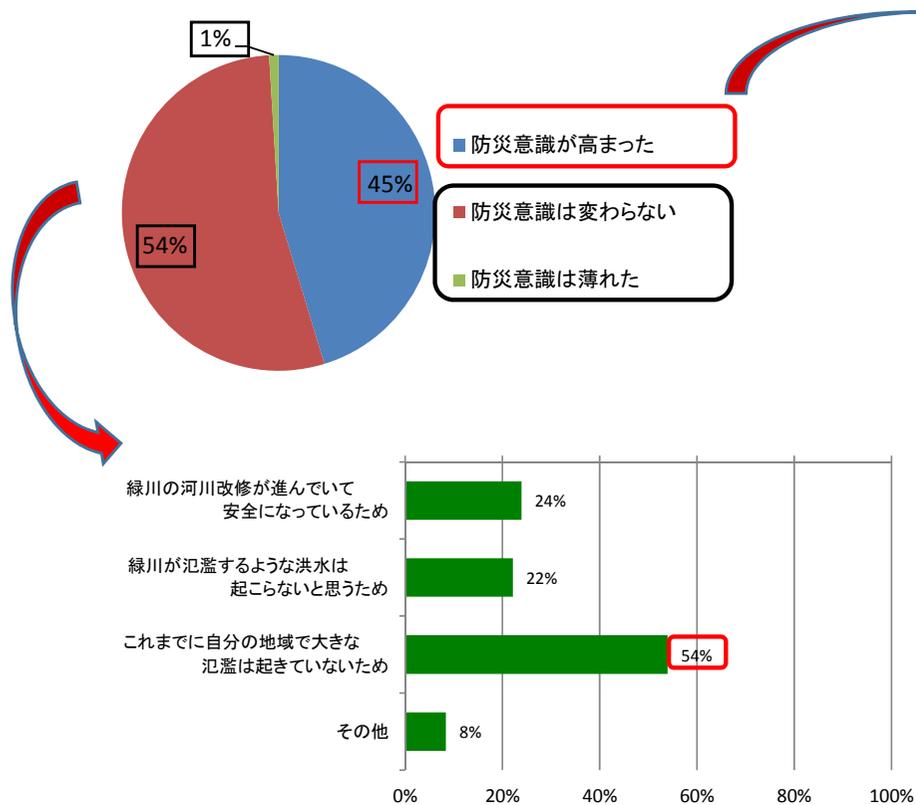
# 緑川流域の住民アンケートの結果

## ③平成28年6月出水: 防災意識について

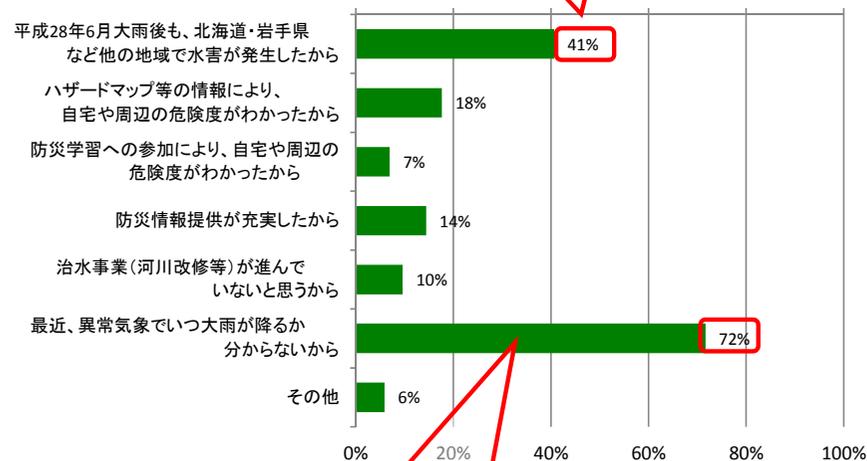
平成28年6月の出水前後と比較して、防災意識は5割弱の方が高まっているものの、「これまでに住んでいるところで水害が起きていない」等の理由から5割強の方は変化していない。

平成28年6月の出水前後、防災意識が高まった方のうち、近年の集中豪雨、全国的な水害の発生状況により、水防災意識が高まっていることが伺える。

### 「Q. 平成28年6月出水後の防災意識の変化」



### 「防災意識が高まった」理由



近年の雨のリスクを認識

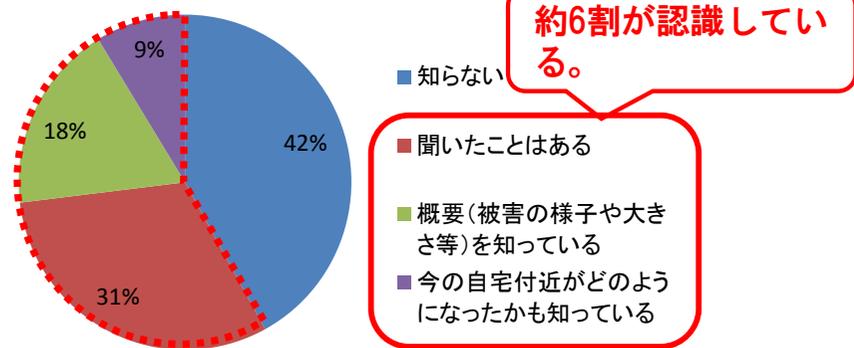
# 緑川流域の住民アンケートの結果

## ④昭和63年5月出水

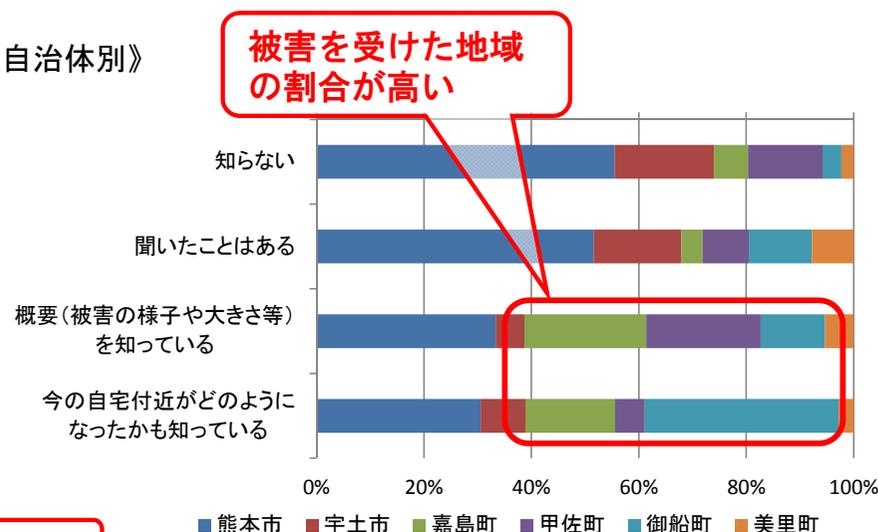
昭和63年水害については、約6割の方が認識している。自治体別で見ると被害を受けた御船町、嘉島町、甲佐町の方は特に認識度が高いことが伺える。

また、被害地域でも50代以上は知っている割合が高いが、30代以下になると知らない割合が高くなる。

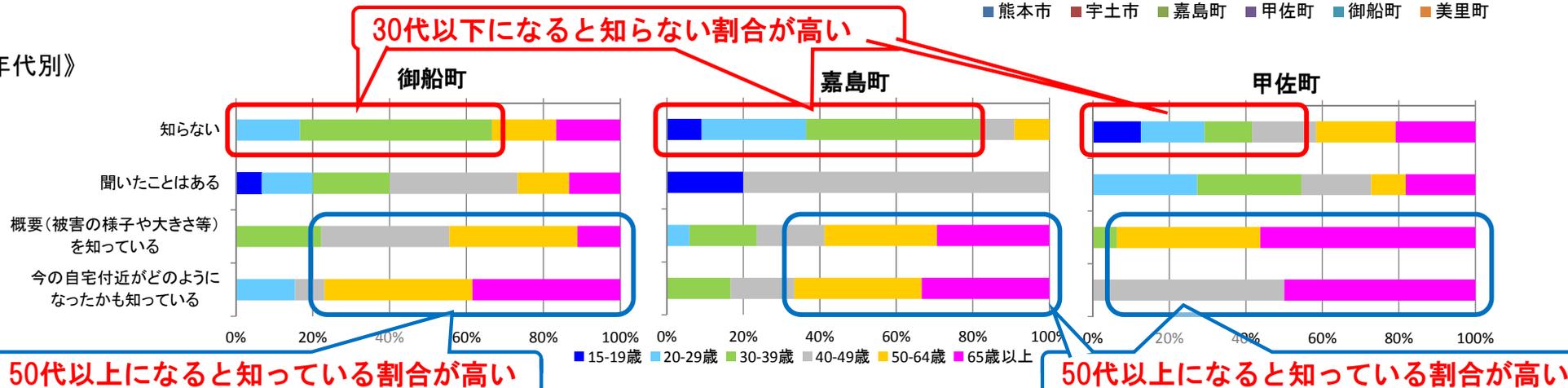
### 「Q.戦後最大の被害を出した昭和63年5月の水害の認識」



### 《自治体別》



### 《年代別》



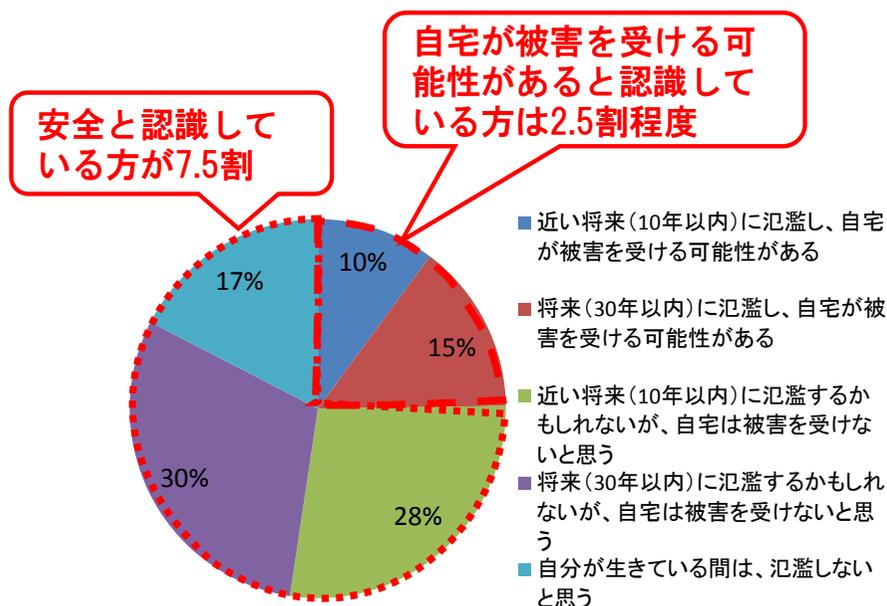
# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑤被害認識とハザードマップの活用状況

### <白川>

自宅は被害を受けないと思っている方が8割弱となっており、水害リスクについて理解されていない状況が伺える。

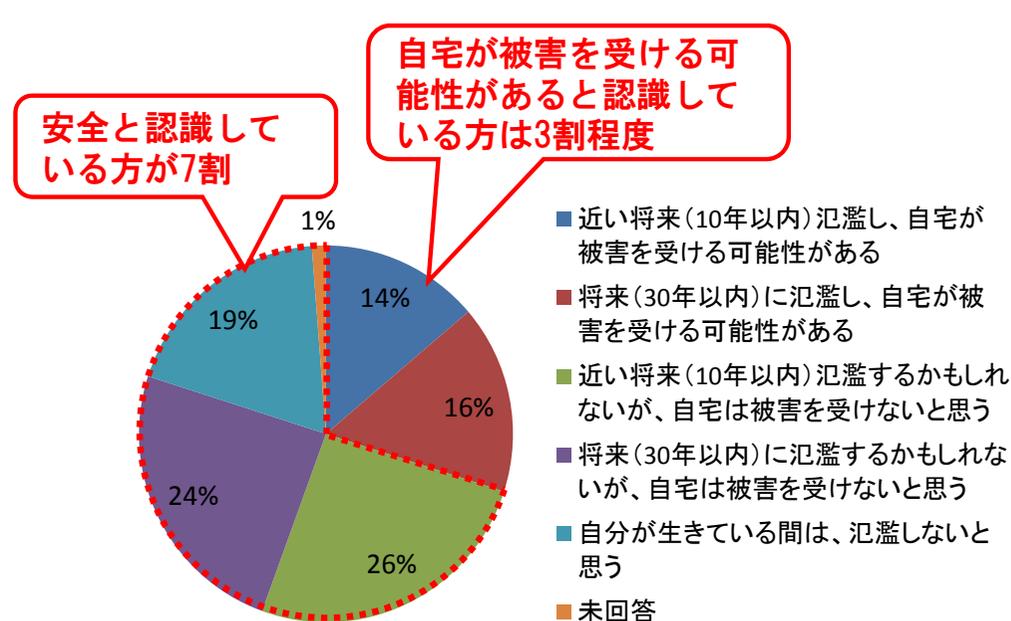
#### 「Q.白川の氾濫の可能性、被害を受ける可能性やその程度」



### <緑川>

自宅は被害を受けないと思っている方が7割となっており、水害リスクについて理解されていない状況が伺える。

#### 「Q.緑川の氾濫の可能性、被害を受ける可能性やその程度」



# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑤被害認識とハザードマップの活用状況

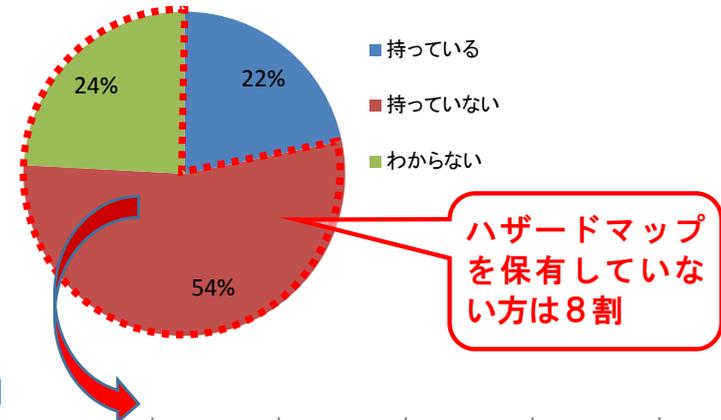
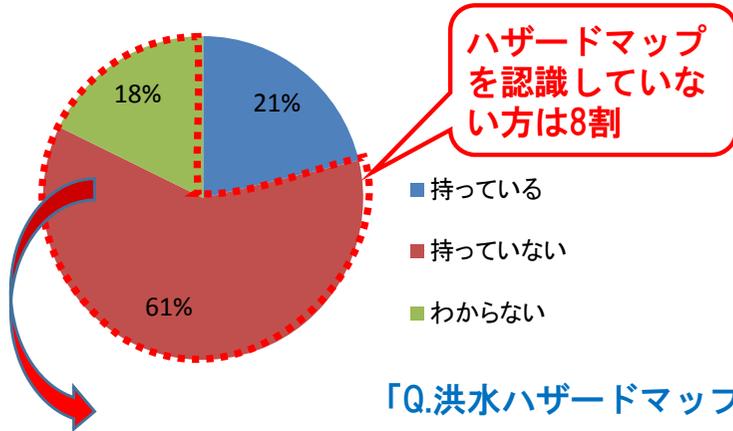
### <白川>

「ハザードマップを持っていない・わからない」が8割に登り、水害リスクについて理解されていない状況が伺える。

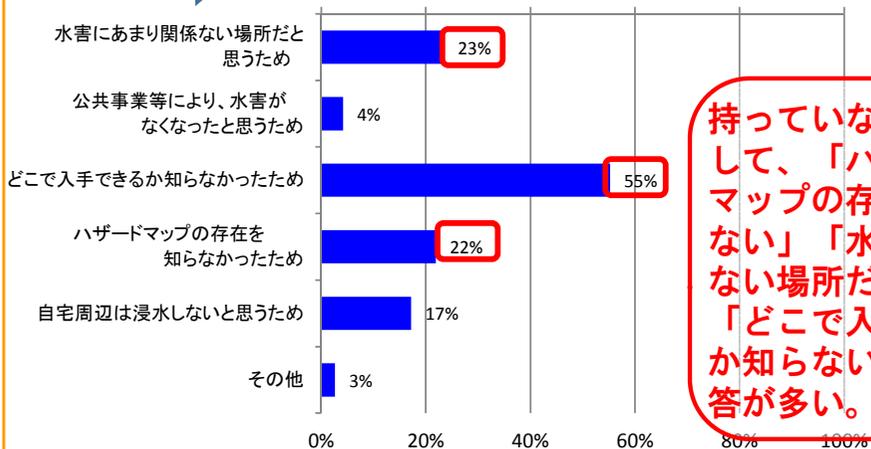
### <緑川>

「ハザードマップを持っていない・わからない」が8割に登り、水害リスクについて理解されていない状況が伺える。

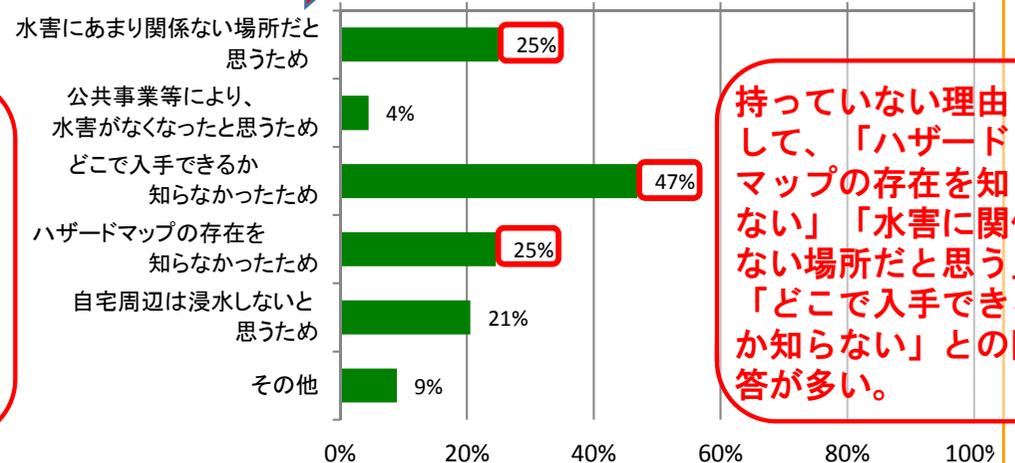
「Q.洪水ハザードマップの保有状況」



「Q.洪水ハザードマップの保有していない理由」



持っていない理由として、「ハザードマップの存在を知らない」「水害に関係ない場所だと思う」「どこで入手できるか知らない」との回答が多い。



持っていない理由として、「ハザードマップの存在を知らない」「水害に関係ない場所だと思う」「どこで入手できるか知らない」との回答が多い。

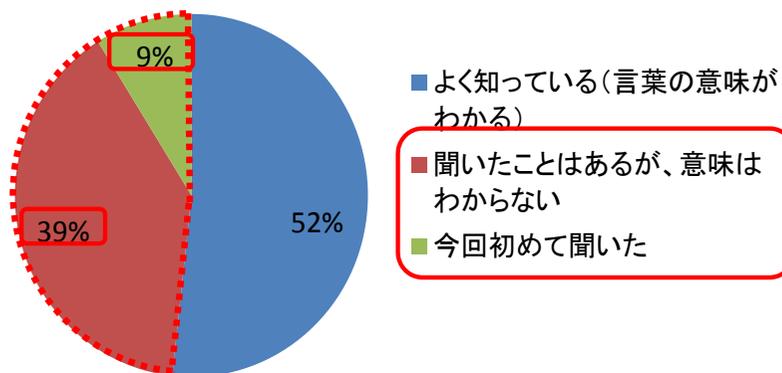
# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑥避難情報等

### <白川>

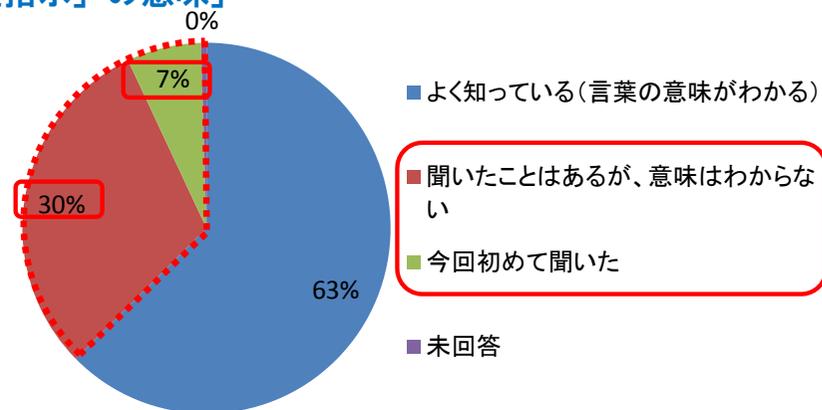
避難情報について「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は、約5割、また、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は約6割である。

「Q. 「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」の意味」

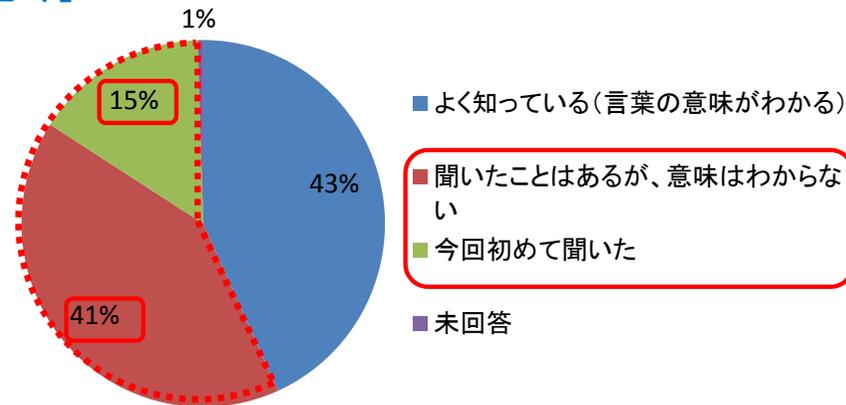
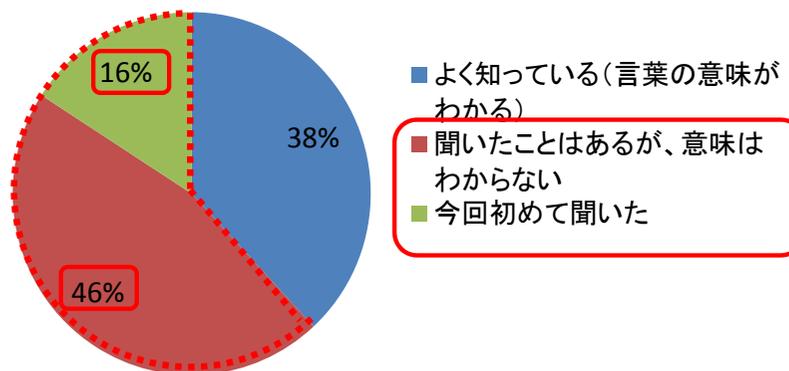


### <緑川>

避難情報について「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は、4割弱、また、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は5割強である。



「Q. 「避難判断水位」「氾濫危険水位」の意味」

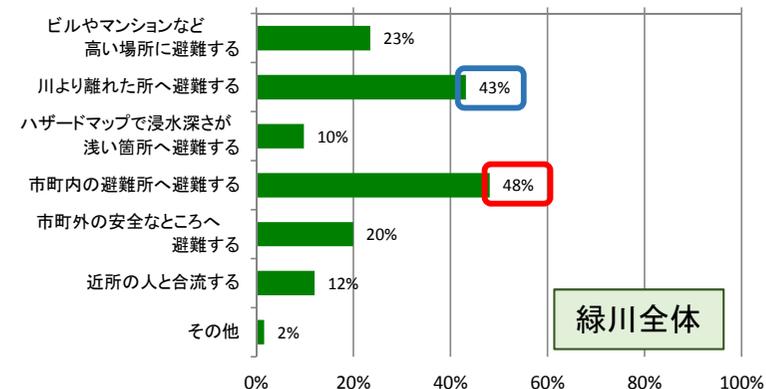


# 緑川流域の住民アンケートの結果

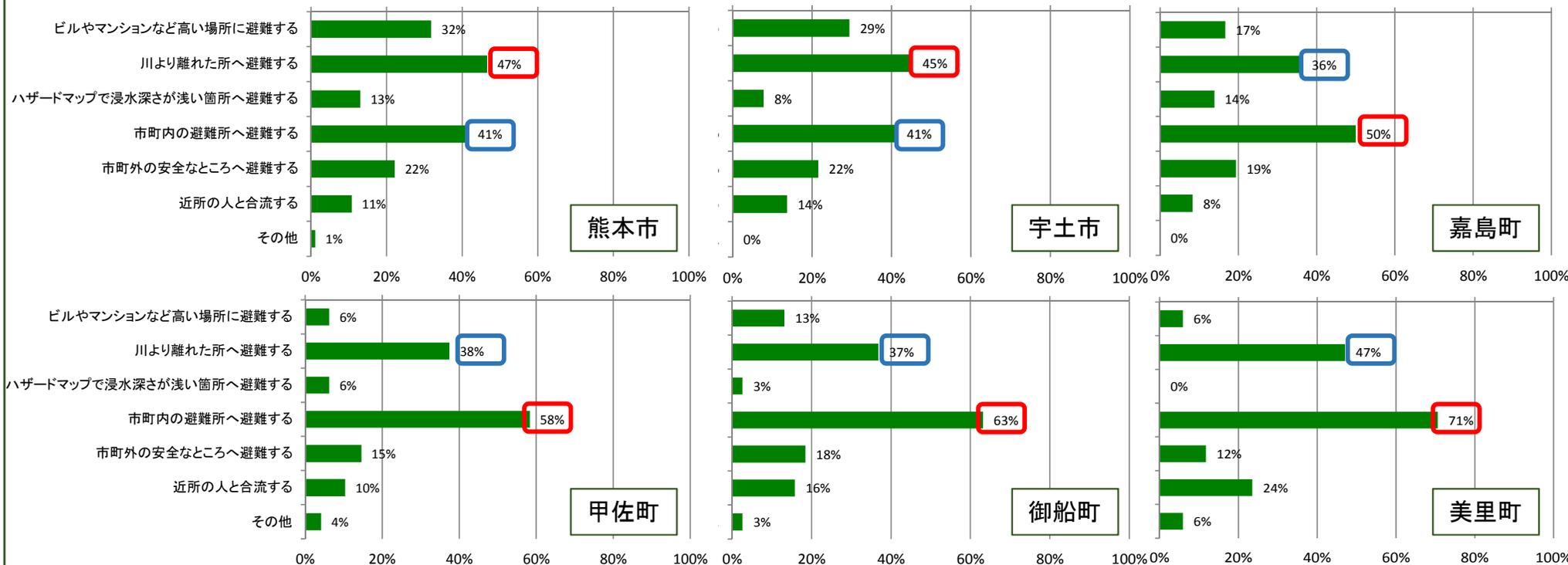
## ⑦緑川の地形特性と避難に関するニーズ

緑川流域は、ひとたび氾濫が発生した場合、広範囲に浸水することが想定される。特に閉塞型の氾濫形態の中下流域(熊本市、宇土市、嘉島町、御船町)では、川より離れたところへの避難(広域避難)のニーズがある。

「Q.水害が起き避難する場合、避難の方法」



1位回答 (Red box)  
2位回答 (Blue box)



# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑧ 情報の取得

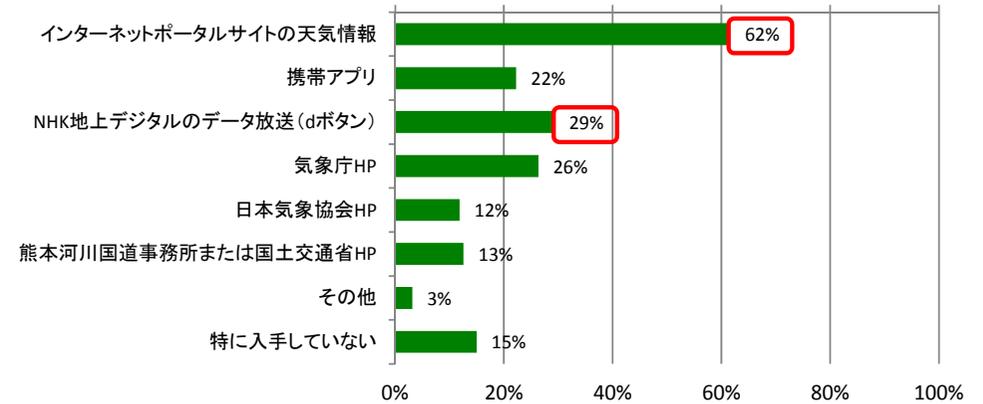
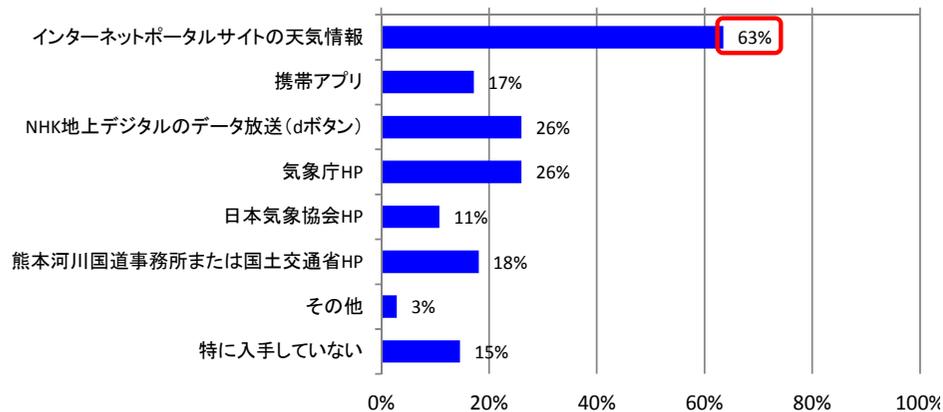
### <白川>

利用者が主体的に情報を取得に行くインターネットサイトの活用は多いが、その他の手法は3割を超えていない。

### <緑川>

利用者が主体的に情報を取得に行くインターネットサイトの活用は多いが、NHKデジタルTV放送(dボタン)などの利用が少ない。

「Q.雨量や白川の水位等の情報の入手方法」



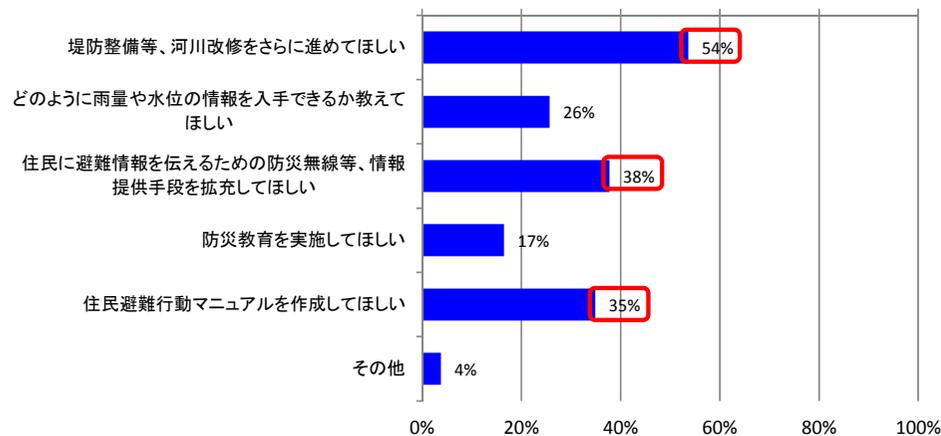
# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑧ 情報の取得

### <白川>

住民側からの情報の取得が進みつつあるものの、河川改修に対する期待だけではなく、情報提供手段に対するニーズ、避難行動マニュアル作成等についてニーズが高いことが伺える。

#### 「Q.行政へのニーズ」

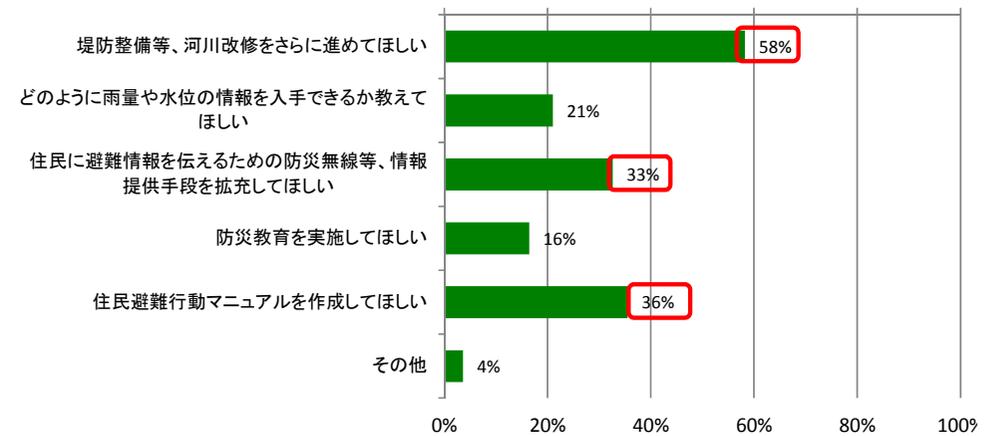


#### 【その他意見】

- ・エリア別の避難ルート作成
- ・避難所の障害者の受け入れ体制の充実

### <緑川>

住民側からの情報の取得が進みつつあるものの、河川改修に対する期待だけではなく、情報提供手段に対するニーズ、避難行動マニュアル作成等についてニーズが高いことが伺える。



#### 【その他意見】

- ・年々、異常気象の深刻さが増す様に思うので、教育施設などでの防災教育はもちろん、消防団を中心として、自治体の中での防犯体制をしっかりと考えるための啓発活動が必要。
- ・知っている避難所は、同じ平地。氾濫すれば避難所も被害に合う可能性がある。
- ・地域の避難訓練

# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑨災害への備え

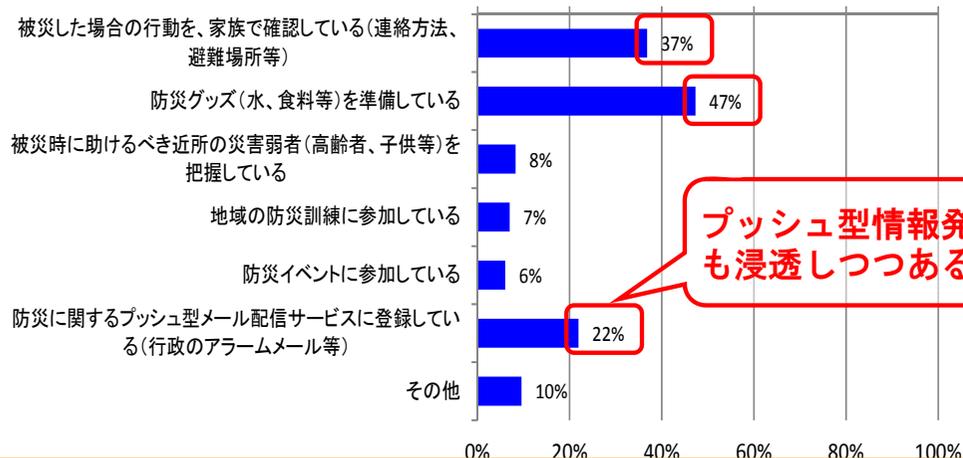
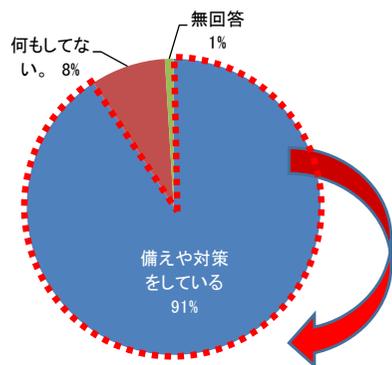
### <白川>

現在、実施されている日頃からの水害への備えや対策については、約9割の方が日頃から備えられている。また、「避難場所や連絡方法の確認」、「防災グッズ等の準備」の実施が浸透しつつあることが伺える。

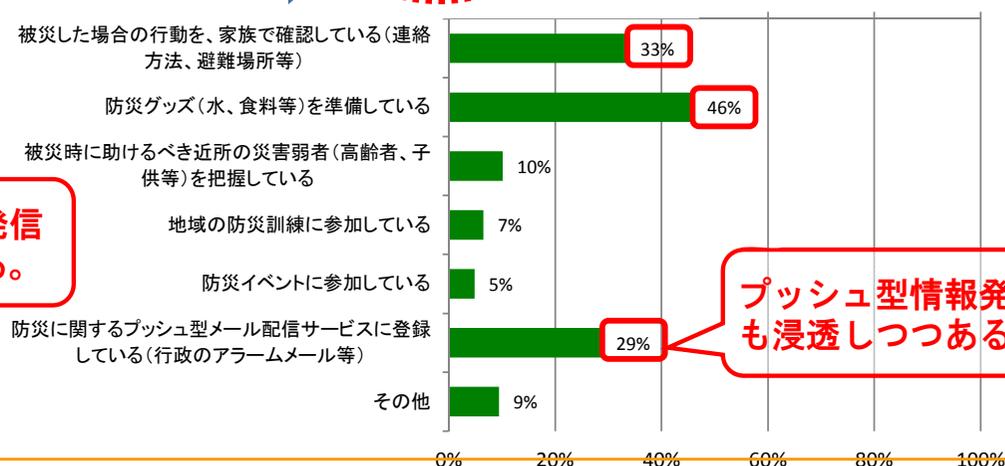
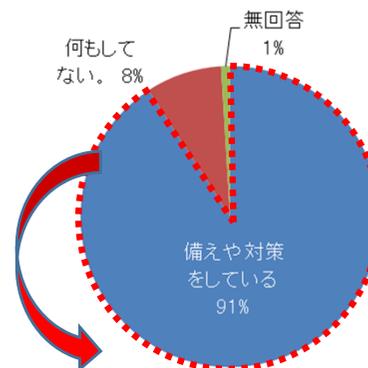
### <緑川>

現在、実施されている日頃からの水害への備えや対策については、約9割の方が日頃から備えられている。また、「避難場所や連絡方法の確認」、「防災グッズ等の準備」の実施が浸透しつつあることが伺える。

「Q.日頃から水害への備えや対策」



プッシュ型情報発信も浸透しつつある。



プッシュ型情報発信も浸透しつつある。

# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑨災害への備え

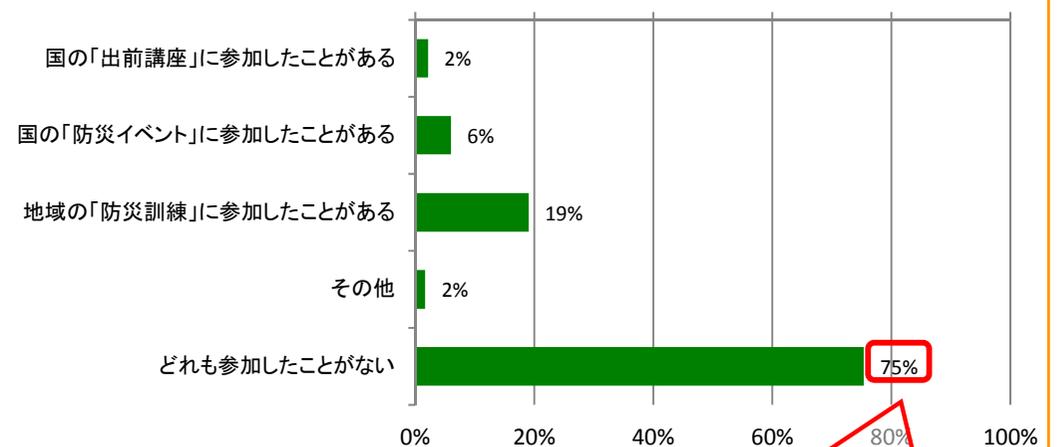
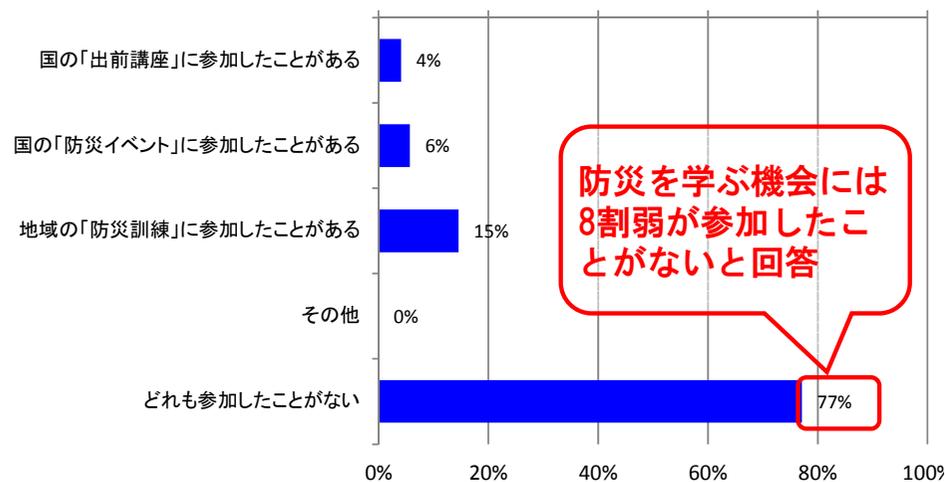
### <白川>

防災学習等への機会の参加については、8割近くの方が参加したことがないと回答。

### <緑川>

防災学習等への機会の参加については、8割弱の方が参加したことがないと回答。

「Q.防災学習等の機会への参加」



防災を学ぶ機会には8割弱が参加したことがないと回答

# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑩ 地域コミュニティにおける防災への取り組み

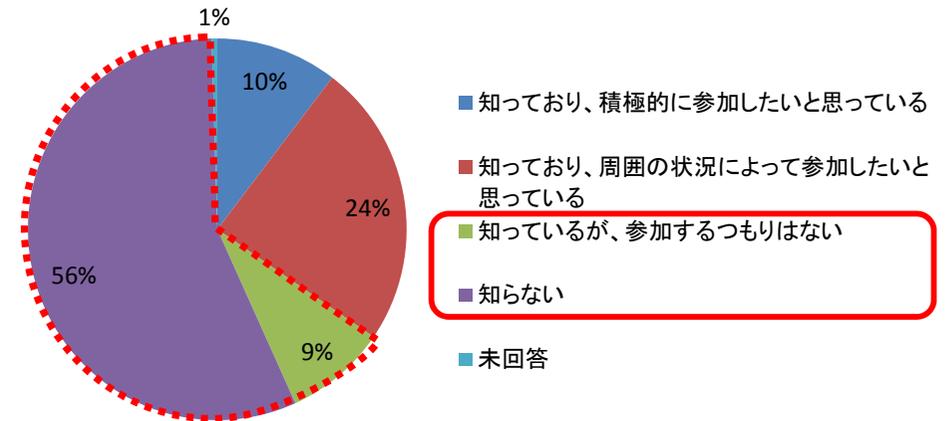
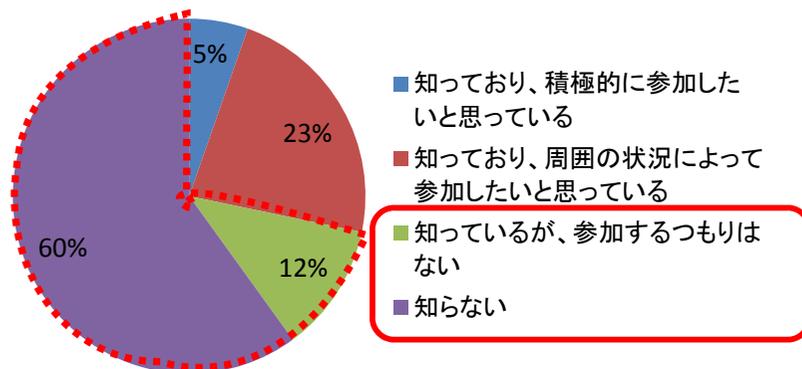
### <白川>

6割の方が自主防災組織を認識しておらず、知っているが参加するつもりはない方も約1割程度となっている。日頃からの防災に対する地域との関わりが少ないことが伺える。

### <緑川>

6割弱の方が自主防災組織を認識していない。日頃からの防災に対する地域との関わりが少ないことが伺える。

「Q.地域の自主防災組織との関わり」



# 白川・緑川流域の住民アンケートの結果

## ⑩ 地域コミュニティにおける防災への取り組み

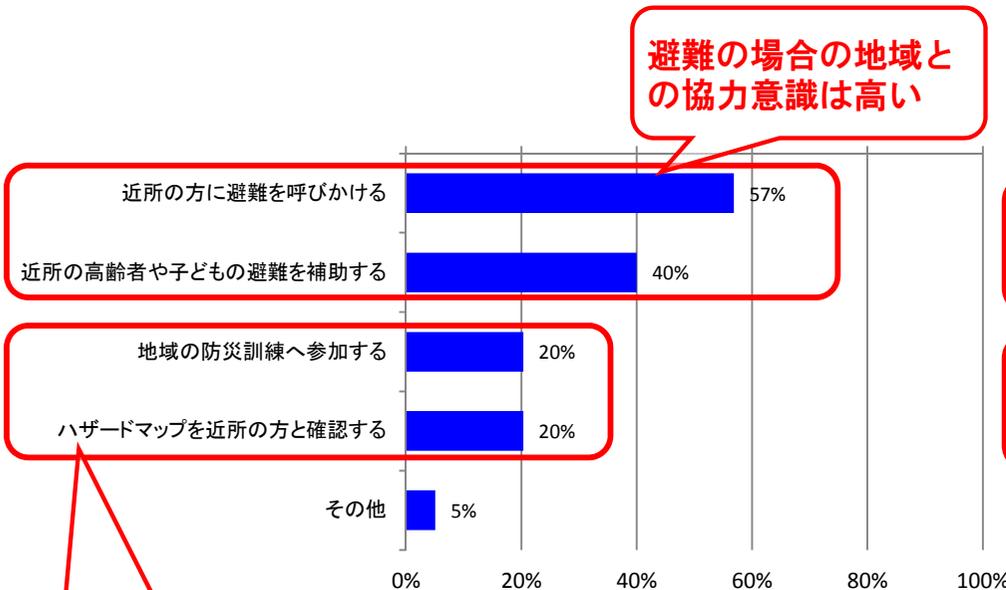
### <白川>

避難時の共助に対しては意欲が高いと考えられるが、日頃からの防災に対する地域との関わりについては意識が低いことが伺える。

### <緑川>

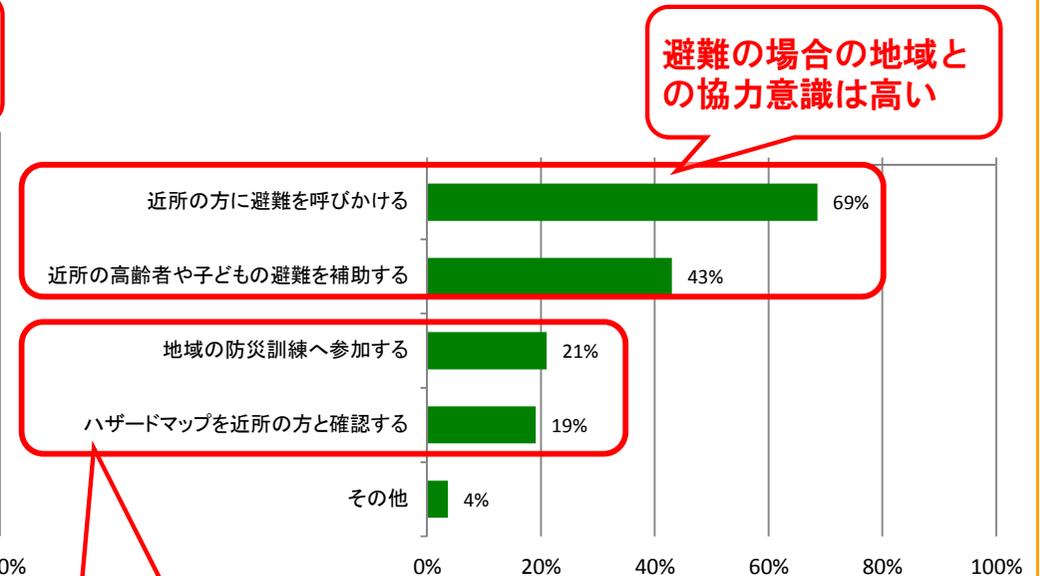
避難時の共助に対しては意欲が高いと考えられるが、日頃からの防災に対する地域との関わりについては意識が低いことが伺える。

#### 「Q.防災に関する地域への協力」



避難の場合の地域との協力意識は高い

日頃からの地域での防災の取り組みには意識が低い



避難の場合の地域との協力意識は高い

日頃からの地域での防災の取り組みには意識が低い

## アンケート結果に見る解決すべき課題

### <白川>

- ・白川の氾濫域に住んでいるにもかかわらず、白川との関わりが薄い傾向にある。
- ・昭和28年白川大水害について、若年層において認識度が低い。
- ・洪水が起きたとしても自宅は浸水しないと思われる方が8割弱で、水害は自分の身にも起こり得ることを意識していないことが伺える。  
また、ハザードマップを認識していない方が約8割にのぼる。
- ・避難情報について「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方が約5割。  
また、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は約6割。
- ・6割の方が自主防災組織を認識しておらず、知っているが参加するつもりはない方も、約1割。  
日頃からの防災に対する地域との関わりについては、意識が低いことが伺える。

### <緑川>

- ・昭和63年災害について、被害を受けていない地域では認識が低い。
- ・洪水が起きたとしても自宅は浸水しないと思われる方が7割で、水害は自分の身にも起こり得ることを意識していないことが伺える。また、ハザードマップを認識していない方が約8割にのぼる。
- ・想定浸水区域が広く、川より離れた所や市町外の安全な所など、広域的な避難のニーズが高いことが伺える。
- ・避難情報について「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方が約4割。  
また、河川水位情報に関して「意味はわからない」、「今回初めて聞いた」と回答された方は約6割。
- ・約6割の方が自主防災組織を認識しておらず、知っているが参加するつもりはない方も、約1割。  
また、共助についての意欲は高いと考えられるが、日頃からの防災に対する地域との関わりについては、意識が低いことが伺える。